令和八年 第一回定例会 予算特別委員会質疑より

3/5 ～ 3/23



令和八年度、区議会議員としていよいよ四期目の最終年となりました。

これまでの十五年間の議員活動では、様々な経験をしながら多くの課題と向き合ってきました。この間高齢化はさらに進み、健康長寿社会を築いていくための施策、そして子育て施策、とりわけ公共施設の整備や公共交通バス路線の拡充、災害対策など、地域・地区ごとに取り組まなければならない課題が山積しております。

引き続き全力で取り組んでまいりますので、皆さまからのご指導・ご支援を是非よろしくお願いいたします。

この１年も引き続き監査委員として務めさせていただきますので、議会本会議での質問と決算特別委員会での質疑ができません。そこで、今回の37号は第一回定例会予算特別委員会での質疑内容を抜粋しての報告となります。

3月5日 総括質疑 奥沢センタービルの耐震化



耐震不足が判明したのが平成27年、以来10年が経過。さらに区民センター・図書館が仮運営を余儀なくされたのが令和５年、既に３年が経過しています。私は何度もこの件について質問してきました。



QUESTION

さすがに10年ともなると「耐震化は本当に可能なのか」と、地元の皆さんはとても心配しています。１階のテナントは早々に撤退して半分以下になってしまい、その２階が区民センター、３階が図書館でしたので、３年前にやむなく区もこの二つの施設を、仮とはいえ出てしまったことで、駅前なのに、地元では「まるでゴーストタウンのようだ」とまで言われています。
現在、管理組合で工事費を徴収するため、法的措置として裁判を行っているようですがどうなっているのか。また実際工事に向けた進捗状況や今後のスケジュールがどうなっているのか伺います。

ANSWER



玉川総合支所長

奥沢センタービルの耐震補強及びこちらの工事が進まない一番の課題は、施主でございます建物の管理組合におきまして工事に必要な経費の確保ができていないというところでございます。
区としましては、奥沢区民センター及び奥沢図書館が奥沢センタービルに戻ることができるよう、管理組合の一員といたしまして、他の区分所有者と協力をしながら奥沢センタービルの耐震化を目指してまいります。



奥沢駅北側の建設現場
区民センター・図書館の一部が再仮移転予定

奥沢区民センターは来年度、奥沢駅北側に東急株式会社が建設中の建物へ再仮移転し駅前になんとか元の規模を確保できますが、奥沢図書館については開架式には程遠い状況で、図書館機能が低下したままです。



QUESTION

奥沢センタービルの耐震化が図れるまでは、現奥沢図書館仮事務所（旧奥沢まちづくりセンター）も使うなど、更なる図書館機能の拡充が必要と考えますが、区長の見解を伺います。

ANSWER



世田谷区長

図書館については東急のビルにもできますけれども、センタービルの再開まで、現在の仮事務所の活用という議員から今お話がありましたが、地区における図書館機能の補完やお住まいが駅から離れている方の利便性といった観点から、私は十分検討に値すると思っております。
図書館が分散するという中でその役割分担なども考えながらスタッフ体制ということも検討していかなければならないと思っております。

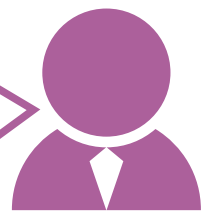
十分検討に値するという言葉をいただきましたので、ぜひ三つ目の仮図書館機能として、お願いしたいと思います。しかし図書館については区長もご認識の通り、このままでは地元の皆さんは到底納得されません。そこで、奥沢センタービルの近隣では奥沢地区のほぼ中心に位置する奥沢小学校が考えられます。まずはセンタービルの耐震化を何とか実現させた上で元に戻すことが待たれるわけですが、建物の耐震化が図られたとしても、令和19年には築65年を迎えます。



QUESTION

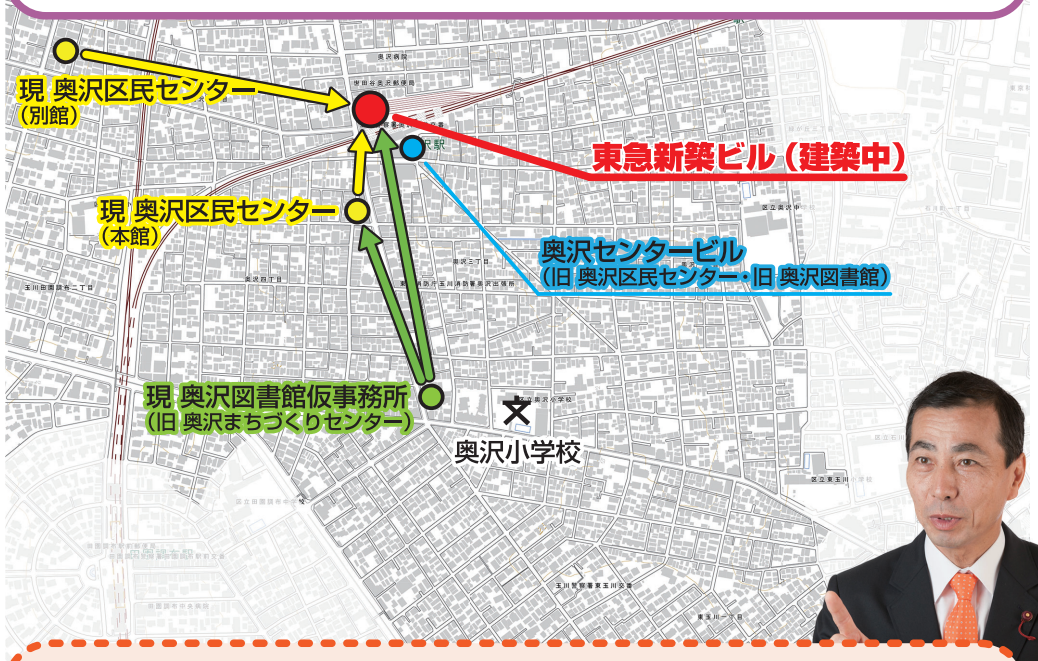
区は、奥沢センタービルの耐震化が図られた場合でも令和19年には築65年を迎えるという点ともう一つ、残念ながら耐震化が図られなかった場合、それぞれの状況において区長はどのような対応を考えているのか。この先の計画を示すべきと考えますが、いかがでしょうか。

ANSWER



世田谷区長

委員おっしゃるように、図書館は未解決ということで、この解決に総力を挙げるように指示してまいりました。まずは耐震工事について進捗を見ながら、出来上がりましたら安全性が回復するわけなので、そこでもう一度使うということが一つ。しかし、なかなか果たされないという場合もあろうかと、二重のシナリオで検討するように議論をしております。
また、使えた場合にも、一定の老朽化のタイミングが来るというお話もございました。築65年を迎える令和19年度を一つのメルクマールとして、委員お話しの奥沢小学校も含め、周辺の公共施設との複合化の可能性も考え、検討に着手をしてまいります。
整備の時期については奥沢センタービルの耐震化の状況いかんによりますが、住民の利益第一の視点を持ちながら、長いこと御不便をおかけしているということをしっかり受け止めて、柔軟かつ機動的に対処してまいります。



耐震化が図られたとしても大変年数が経つ建物ですから、その先の計画・構想を区として、しっかり持っておいていただきたいと思います。

ご意見・ご感想はこちらまで　〒158-0083 東京都世田谷区奥沢 1-40-2　TEL 03-3720-3542　FAX 03-3720-6928

3月5日 総括質疑　私立幼稚園の今後と幼児教育

区内では私立幼稚園の閉園が相次いでいます。募集してもなかなか申込みが来ないという状況がここ何年か続いてます。



QUESTION

私立幼稚園の閉園が続いている状況を区長はどのように捉えているのか、見解を伺います。

ANSWER



世田谷区長

私立幼稚園が非常に厳しい状況に置かれているということを何とかしたいというふうに考えております。伝統に培われた独自の園風や教育理念を持って、長年地域に密着をして家庭教育を支える、子どもの学び、育ちをしっかりと受けてきた地域の幼児教育資源で欠かせない存在であると考えています。
来年度予算においてはこの幼稚園をしっかり支えようということで、できる限り園の経営基盤の支援につながる補助を増額しました。
私立幼稚園は、今後、個性豊かな幼児教育を大切に継続しながら、保護者の選択にも応えられる、時代の変化に応じた取組にも力を入れていただきたいと考えており、区の後押しをしっかり効果的に行うことによって、これ以上の減少に歯止めをかけて、幼児教育の豊かな環境づくりを進めていきたいと思っております。



幼児教育の重要性は言うまでもないことですが、保護者がどの選択肢を選べるかに応えていかなければなりません。



QUESTION

現状の保育待機児童が再び増加している中、認可保育園をさらに増やしていく一方で閉園している私立幼稚園も実際出てきており、このままでは幼稚園は今後ますます衰退していくのではないでしょうか。今後の幼児教育についての教育長のお考えも伺います。

ANSWER



教育長

保育の需要が一層高まっている中、幼稚園の入園児数が大きく減少し、運営面で厳しい状況に置かれていると認識をしております。しかしながら、乳幼児期は非認知能力の基礎が育まれる重要な時期であり、保育所や幼稚園がそれぞれの特性を生かしながら、遊びを通した体験、経験を学びにつなげる質の高い教育、保育を提供していくことがこれまで以上に求められています。
区では、施設類型にかかわらず、区全体の乳幼児期の教育、保育の質の向上を図るため、乳幼児教育支援センターを設置し、公・私立幼稚園、保育所等の枠を超えて、人材育成、先進的なモデル研究、専門人材の派遣による園運営の支援などを実施してきております。また、小学校への懸け橋期における連携を強化し、子どもの学びや育ちが途切れることがなく、つながるよう取組を進めています。
今後も幼保、公私立のいずれであっても、地域の中でそれぞれの園が果たす役割を十分に発揮できるよう、教育委員会としてもしっかり支援してまいります。



閉園してしまった白菊幼稚園（奥沢１丁目）



区長、教育長の答弁から、区の教育総合センターの存在、使命、期待は相当なものがあろうかと思います。「三つ子の魂百まで」ということわざがありますが、保育園なのか幼稚園なのか、それぞれ家庭の事情で選択することになりますが、小学校への接続を考えると、幼児教育が非常に大切であるということを、私たちは再認識しなければなりません。

3月5日 総括質疑　大井町線、東横線の踏切解消に向けて

いよいよ今年の夏、目黒区自由が丘一丁目29番地区、駅前のビルが完成。秋にはテナントも入り、新しい自由が丘に生まれ変わろうとしています。



QUESTION

目黒区では自由が丘のこの再開発を契機に、大井町線、東横線の踏切解消に向けた機運が高まっております。この状況を踏まえ、隣接する世田谷区としても、沿線住民の踏切解消に向けた機運醸成を今まで以上に積極的に進めるべきと考えますが、見解を伺います。

ANSWER



技　監

東急大井町線、東横線の一部区間は、東京都の踏切対策基本方針におきまして鉄道立体化の検討対象区間に位置づけられております。現在、東京都において同方針の改定作業が進められているところですが、お話しの自由が丘の再開発が進みますと、にぎわいが創出される一方で交通滞留が懸念をされ、安全性の確保の必要性が高まることとなり鉄道立体化の重要性は一層増していると認識しております。
こうした中で、区では今後改定される踏切対策基本方針との整合を図りつつ、鉄道立体化を契機とした交通の円滑化や地域資源を生かした沿線価値の向上と安全安心なまちづくりの方向性を示す大井町線沿線街づくり基本方針の来年度中の策定を目指しまして、現在、庁内検討会や東京都との協議を重ねながら、素案の作成に向けて検討を進めているところでございます。
今後、街づくり基本方針策定に当たりましては、大井町線沿線の町会・自治会、商店街等で構成する街づくり連絡会をはじめ、地域の方々への情報提供に努め、素案の区民意見募集やオープンハウスを実施しまして幅広い意見を集約するなどにより、委員お話しの沿線地域の一層の機運醸成を図ってまいりたいと考えています。今後、さらに東京都や目黒区、鉄道事業者と連携を強化しながら、踏切解消と沿線の安全で魅力的なまちづくりに積極的に取り組んでまいります。



自由が丘駅前再開発
間もなく１丁目29番地区のビルが竣工しますがあわせて踏切解消も進めなければなりません

大井町線・東横線は玉川地域の大動脈でもありますし、自由が丘駅周辺の再開発によって、道路や駅周辺の整備などによって、今後バス路線の新たな整備なども考えられます。現在バス路線は減便や廃止が続いている中で、区は改めて来年度予算を計上して取り組んでいくということです。
奥沢・東玉川地区についても、１日に５本しかない大変厳しいバス路線がありますが、区内でも高齢化率が高いこの地区の皆さんにとって大変貴重なバス路線です。今後運行本数の増便やさらにバス路線拡充をめざして、地元の機運醸成を高めなければなりません。

3月10日　区民生活委員会所管質疑

紙面の都合上以下の質疑がご紹介できませんが、項目のみご報告します。

- **奥沢区民センター・奥沢図書館再仮移転に向けてのスケジュール**
- **公園等へのスタンドパイプ（消火用ホース）の配備**
- **多摩川河川敷の運動場女子トイレ事情の改善について**
- **“ 世田谷区民健康村 ” 群馬県川場村について**
  - ・なかのビレジの改修工事に伴う休館予定
  - ・宿泊キャンセルの取り扱いについて
  - ・移動教室等の熊対策について

世田谷区議会インターネット議会中継で
すべての質疑が映像にてご覧いただけます